

1. 地域連携の好事例

①秋田県仙北市玉川温泉水素製造プロジェクト

強酸性温泉水と廃アルミニウムを利用した地上設置型のジョリアクターを開発し、これを用いてCO₂の排出を伴わない水素製造の研究を行っている。

地熱の直接利用の高度化を促進し、将来の超臨界地熱発電開発の有効性と実現性を高めることが可能となり、CO₂の排出のない地熱資源の価値をさらに高めるものと期待される。



②地域におけるZEBの推進に関する取り組み

大学キャンパスや地域のゼロ・カーボン化に貢献すべく、環境科学研究科が所有する「エコラボ」のZEB改修を実施。東北地方で初となる『ZEB』を達成した。

さらに宮城県内、東北地方におけるZEBの普及を産学官の連携体制のもと推進するため、「みやぎZEB研究会」を大学主導で発足させ、運営している。



③自治体の温暖化対策推進計画・エネルギービジョン策定支援

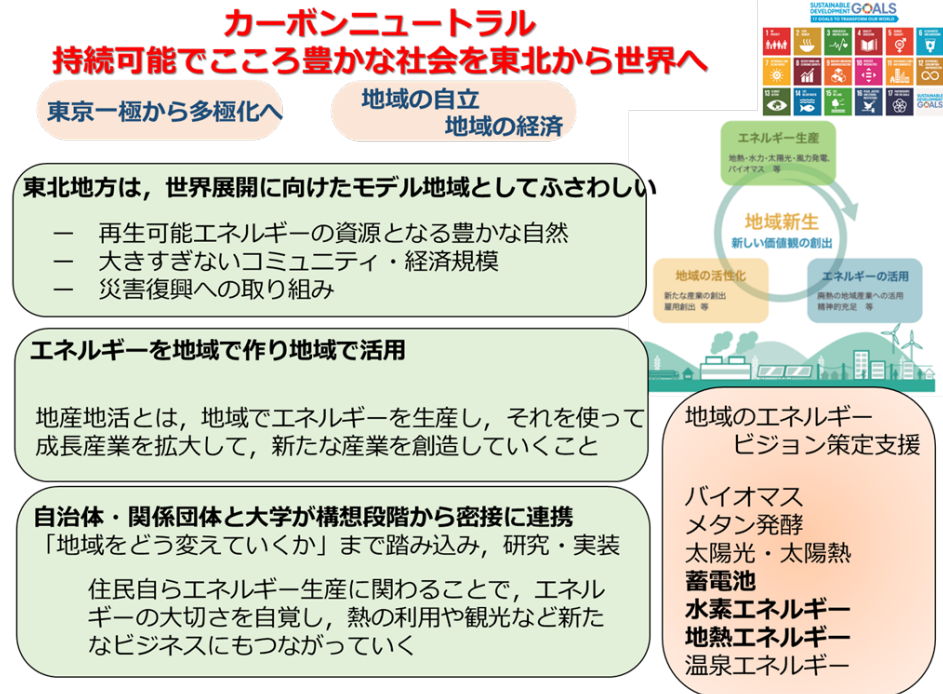
宮城県「地球温暖化対策実行計画」や仙台市「温暖化対策基本計画」、「杜の都環境プラン」などの自治体の温暖化対策推進計画や、秋田県仙北市「仙北市地域新エネルギービジョン」などのエネルギービジョン策定に関する。



2. 地域連携における課題

ポイント① 学術の創出：地域連携の事例紹介を出発点としながらも、新しい地域連携の考え方、方法論の情報共有と体系化を進めたい。たとえばの成果として、webサイトの立ち上げとか書籍の刊行その延長として、地域連携の新しい学術を創出する。

ポイント② 若手担い手創り：若手研究者の自発的取り組みを支援し、大学間の若手研究者の交流を進める。その延長として、地域の若手を取り込んで、地域の担い手を育成する。



3. その他特徴的な取り組み

東北大学グリーン未来創造機構の設立

Green Technology、Recovery & Resilience、Social Innovation & Inclusionの3つの柱のもと、大学の総合力を以て全学組織的に社会課題の解決へ挑み、地球温暖化をはじめとする環境及び社会問題を解決し、自然災害や感染症等のあらゆる災害に対してレジリエントで、且つ人々が心豊かに暮らすことのできるグリーン未来社会の実現に貢献することを目的として、「東北大学グリーン未来創造機構」を2021年4月に設置した。

エネルギーシンポジウム開催

10月7日に「東北大学エネルギーシンポジウム」（主催：エネルギー価値学創生研究推進拠点）を開催し、文部科学省担当課課長、WG幹事機関である宮城大学学長、先導的低炭素水素プロジェクトを実施している富谷市市長にご登壇いただき、東北より始まるカーボンニュートラルの現状と未来への展望について基調講演を頂戴した。新型コロナ対策を施した会場は満席で、同時にYoutubeでの配信も行った。

4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

コアリションの明確なゴールが提示されるような議論の場となることを期待したい。

5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

地域特性を活かし、エネルギーの地産地活の新しいモデルを構築し、「東京一極から多極化へ」、「地域の自立と地域経済の発展」を目指したいと考えています。